

編集後記

○第三輯をお届けします。

○岸本芳雄会員からは「教え子からみた加藤玄智先生の教育者の側面」を頂きました。先生の教え子の生存者の一人として、執筆者の学生時代における先生との出会いに始まつて晩年までの先生の教育者としての面を切々としたものせられた文章である。先生の人柄を窺ひ知るよき読物といへる。

○森田康之助会員は「陶冶理想の視座——その社会化か歴史化か——」を投稿せられた。故千家尊宣前出雲大社教管長は『神道出雲百話』中で、人は誰も幸福を希ふものであるとして、ここに神道の意義を認め、幸福の内容としては生き甲斐の発見的を絞つた点から筆をおこす。生き甲斐は、処生の上で得た体験上の智慧、自づと修得、体得したもの、つまり、生き甲斐とよばれる生活上の目標は、社会といふ横のつながりから求められるのではなく、歴史と呼ぶ縦のつながり、歴史から得られるものである点をギリシヤの哲人、ランケ、ヘーゲルの著書を始め、愚管抄、神皇正統記は申す迄もなく特に水戸学者三宅観瀾『中興鑑言』と栗山潜鋒『保健大記』を両極に対比せしめて論じた一種の歴史観を示すものである。

○視座とは一つの規準とも置きかへてよい。日々の生活上規準は不可欠である。左側通行は交通安全又は便宜的な一つの規準である。この規準を各人が厳守する限り、原則としては各人にとつての往来には好都合であり安全である。その反対は混乱をきたし死傷者も続出する。

○規準は不可欠でも必ずしも不変ではない。右側通行の国も多い。そこで生き甲斐の視座を社会に求めても、歴史に求めても、目的としての生き甲斐さへ求められれば手段である視座を変更しても差支へない筈である。

○従前我国人は万世一系の皇室の存在を視座に据えて万代易世なき理念として生活してきた。歴史化が優位であった。戦後では一変して教育基本法なども横への連り、社会化を志向してゐる。視座は不可欠でも必ずしも不変ではない。とすると戦後は民主主義時代、主権在民となつたから規準を時間（歴史）化から空間（社会）化への変更は当然であるとの考へ方が教育基本法で説かれ不幸に今日では短絡的に広く支持されてゐる。

○この考へ方への挑戦、そして是正論として本稿を熟読したら意義深い。

○十年近く日本に滞在したアメリカ生れのユダヤ教のラビのM・トケイヤー氏には『日本には教育がない』（五一年刊）、『日本人は死んだ』（五〇年刊）等の著がある。書名だけみても極めてショッキングである。ガソリンスタンド大学と云はれる程に一〇〇校以上の大学が現存し、殆んど90%以上の高校在学生を算へる我国に、教育がないと云ふ。又「日本人は死んだ」といはれてもピンとこないのが実状であらう。教育とは若き世代へ伝統を正しく伝へてゆく作業を、トケイヤー氏は教育と呼ぶ。とするとかかる意味での教育の有無が教育の有無といはれ、かかる教育を受けてゐるかないかで日本人の存在が云々される論義が成立する。彼此を思ひ合せてみると面白い。

○会員上田賢治氏の稿は「神道研究の方法——加藤玄智博士の

發達史觀批判」。先生の主著は『神道の發達史的研究』である。一昧、宗教には發達ということがあり得るのか、あるとする。と發達の实体は何か！との設問に視点をあて、本稿は展開する。神道の發達を自然教期・文明教期と二分類したり、或は初等自然教期・高等自然教期・文明教期神道との三分類を先生は試みてをられる。十九世紀の知的所産の一つにダーウインの進

本会取扱書籍

加藤 玄智著 錦正社刊

宗教学精要

(残部僅少)

定価 九五〇円

送料 二〇〇円

加藤 玄智著 学績記念出版会刊

神道信仰要系序論

(残部僅少)

定価 一、〇〇〇円

送料 二〇〇円

加藤 玄智編 臨川書店復刻版

神道書籍目録 (全二冊)

頒価 二万円

送料 実費

化論がある。自然界に進化があれば宗教にも進化・發達もあらうかと自然に發達史觀が宗教学に採用される結果ともならう。しかし今日果してこの方法論は研究上、特に神道史の研究に妥当し、有効か。上田論文はこれに答へようとしたもの。
○本号から小生が編輯人となりました。宜敷く。(安津)

神道研究紀要 (第三輯)

昭和五十三年五月三十一日発行

会費年一、〇〇〇円

編集兼
発行者

加藤玄智博士記念学会

代表者 伊達 巽

郵便番号 一五一
電話番号 東京三七九一五五一
振替口座 東京九一四二五九三番
印刷所 明德印刷出版社